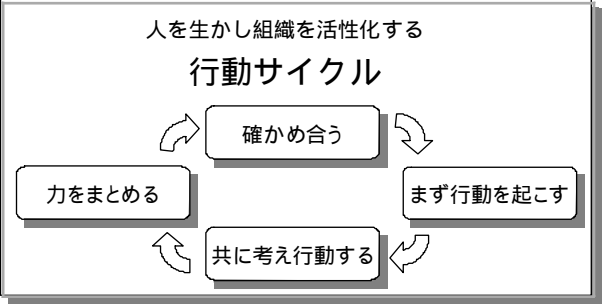


5 組織を活性化する計画をつくりたい

【人や組織に対する思い、願い】  
 教職員一人一人を生かすとともに組織をより活性化させる計画を作りたい。  
 【行動モデルを活用するメリット】  
 行動モデルは、人を生かし組織を活性化させる教頭や主任の「行動サイクル」と連動しているので、組織活性化に向けた明快な計画立案ができます。

ステップ1 組織を活性化させる行動サイクルの流れを理解しましょう

活躍されている教頭、教務主任、学年主任、研修主任の方々へのインタビューを通して集めた816の言動と思い・願いを整理・分析しました。その結果、活躍されている方々の行動には、右の4段階のサイクルがあることが分かりました。このサイクルは、人を生かし組織を活性化していくプロセスととらえることができます。



ステップ2 職務内容に応じた組織の目標と行動モデルを設定しましょう

行動サイクルの流れに沿った自身の姿をイメージしてみましょう。



計画立案では、まず、ご自身の立場やその職務内容に応じた目標を設定しましょう。目標は、自己評価できるレベルまで具体的な内容にします。その際、掲載した行動モデルや行動事例を参考にすると、自己評価しやすい言動を含む目標を設定することができます。設定した目標を達成することができるよう右の行動サイクルに沿った行動モデルを選びましょう。本資料には、180の具体的な行動モデル

目標：  
 確認め合う：  
 【期間 ~ 】

まず行動を起こす：  
 【期間 ~ 】

共に考え行動する：  
 【期間 ~ 】

力をまとめる：  
 【期間 ~ 】

確認め合う：  
 【期間 ~ 】

を掲載しましたが、全ての職務内容を網羅することはできませんでした。そこで、適切な行動モデルが無い場合は、各モデルの下に記述した、一般性の高い160の行動モデルから選びましょう。もし、適当なモデルが見あたらない場合は、他の職や主任の行動モデルを参考にしたり、自身の思いや願い、先輩の姿等を参考にして、新たに行動モデルを作成しましょう。

ステップ3 行動モデルに沿って、計画的に取り組み、振り返りましょう



行動モデルを作成し、実施していく期日や期間を決め、確実に取り組みましょう。

設定した行動モデルを自己点検の項目にするようにしましょう。中・長期的に実施する行動モデルは、**定期的に自己点検**することが大切です。組織が活性化することも大切ですが、その過程を通してご自身の組織マネジメント能力が高まることも大切です。

思うように組織が活性化しない場合は、行動モデルの内容、実施期間等に無理がないか考え、修正案を作成し、再度チャレンジしましょう。

組織活性化の計画シート

〔目標〕

【目標設定日 月 日】（「目標」には目指したい組織が活性化した姿や状態を記述しましょう。）

まず行動を起こす【期間 ~ 】	点検日	成果と課題からの修正案
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	

次の目標

行動サイクル

共に考え行動する【期間 ~ 】	点検日	成果と課題からの修正案
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	

力をまとめる【期間 ~ 】	点検日	成果と課題からの修正案
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	

確かめ合う【期間 ~ 】	点検日	成果と課題からの修正案
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	
	月 日 4 3 2 1 ┌──┐┌──┐	